

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 藤 尾 耕 三 |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 |
| 学位授与番号 | 博 甲 第 970 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 3年 3月 31日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系内科学(一)専攻 (学位規則第5条第1項該当) |
| 学位論文題目 | Genetic variation of putative core gene in hepatitis C virus (C型肝炎ウイルスにおけるコア蛋白遺伝子の変異) |
| 論文審査委員 | 教授 新居志郎 教授 太田善介 教授 矢部芳郎 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

C型肝炎患者21例の血清より抽出したRNAからcDNAを合成し、polymerase chain reaction (PCR) 法により増幅した。増幅した領域は、ウイルス遺伝子のコア蛋白をコードしていると考えられており、得られたcDNA 1例をクローニングして核酸配列(N15)を決定した。また、Restriction fragment length polymorphisms (RFLP) 分析により、21例の変異について検討した。

米国で分離されたクローンとホモロジーが高いと報告されており、PCRのプライマーのもととなった配列であるHC-J1に比較して、N15には点突然変異以外の変異は認められず、核酸レベルで92.4%、アミノ酸レベルで97.0%のホモロジーを示した。N15はHC-J1よりも、日本で分離された他の2つのクローンとのホモロジーの方が高かった。RFLP分析により14例(66.7%)は、N15と同じパターンを示したが、HC-J1と同等のものは認められなかった。既に発表された配列とは違ったパターンも認められたが、日本で分離されたクローンの2ヶ所に変異が起こったものと推測された。岡山地区ではN15近縁のものが主であり、変異に地域差がある可能性が示唆された。RFLPと臨床像との間には関連は認められなかった。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、C型肝炎ウイルスのコア蛋白をコードすると考えられるゲノム領域の変異について検討したもので、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。